

平成 25 年 12 月 24 日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原 1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 025-794-4168
E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告（輸出業社さんチェック後）

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

激動の 2013 年（この所毎年そうですが…）もう残すところ 1 週間となりました。早いですね～。

本年も大変お世話になりました。

来年もよろしく願います。（暮れまでにもう 1 回くらい欠品報告を兼ねた情勢報告をするかもしれませんが…）

切花年度、2013 年は、

1～3 月 ひどかった。

4～9 月 まずまず？（昨年より良いだけ？昨年は歴史的悪さ？）

10 月 ひどかった。

11 月 昨年より悪かった。（昨年は良かった？）

12 月は、…最後の追い込み。よろしく願います。

* 2012 年産 **Plamv** 産百合球根

- 1) 総合品質はまずまず。一部の品種で、大量のブラックノーズが確認された。
- 2) 9 月以降球根定植作型でエネギー切れが確認された。
- 3) 10 月以降の採花作型でやはり Plamv が確認された。（国産球含む）

Plamv 問題は、13 年産までで、14 年産以降は沈静化すると考えていましたが、どうやら 14 年産まで続きそうです。

2015 年産以降は、根絶は出来ないにせよ、ほぼ終息宣言が出来るのではないかと考えています。

2008 年～2009 年から問題が確認され始めましたが、12 年産/13 年産当たりがピークで、14 年でやや良くなり、15 年以降正常化。当初の見込みは 14 年くらいに終息と聞いていましたが、もう 1 年 1 作くらい時間がかかる様です。

「ソレルの先の光」はまだよく見えないけど、『風は感じれるくらい』にはなってきたかなあと感じます。

13 年産については、まだ緊張感を 12 年産以上に持ったまま、管理しなければいけないと強く感じています。

植防統計によれば、

11 年産	114,854,000 球				
12 年産	105,649,000 球	(105,500,000 球くらいと考えていた。)			
		11 月の入荷量が思ったより多かった。)			

前年比約 8% の入荷量減少となった様です。

* 2013 年産南半球産百合球根

11 月中旬に輸出業社から対日販売状況調査を行ったところ、

	N. Z 産	C. H 産	合計	
聞き取り調査	20,749,705 球	6,546,800 球	27,296,505 球	(11 月第 3 回聞き取り調査)
植防総計	20,763,410 球	6,431,225 球	27,194,635 球	(11 月末植検対象)

12月中に、日本に入荷する可能性はありますが、ほぼアンケート通りの入荷数となる様です。
 C.H産で、ややボリューム不足が確認されています。まずまずだと思います。(昨年が良すぎた?)
 N.Z産は、ボリュームがある。ややウォーターゲージが確認される。(酸欠型ブラックノズ)
 休眠打破が遅かった。(早すぎる作型。輸付きが良くない)
 本年は休眠明けがやや遅かった。もしくは、現地での冷蔵庫初期管理温度が低すぎた。又は10月の日本が暖か過ぎた?

年明け1~3月の切花相場には本当に期待しています。よろしくお願ひ致します。

*** 2013年産ワグ産百合球根**

A. H/L. A/Longi

不作・欠品傾向。
 鉄砲/A. H/L. Aは、芽が進んでいる。

O. H/O. T

作況について、未だ全体傾向が示せません。力の有る無しについてもコメント出来ません。(日本向け品種、大球を中心に、例年より10日~2週間遅れで欠品報告が入り始めました。)

平均的には作が悪い様です。但し、本年8月9日以降急速に世界のO. H/O. T球根消費が鈍化してきている様です。理由は、EURO(為替)の回復が大きな理由との事。(EURO高は対日本円だけでは無い様です。)

世界の切花農家は、自国通貨安EURO高の為、各国の想定される切花価格に対して球根が高すぎる為、近年の様な使用量増加とはいかない様です。

ベトナムはまだ花産業の景気が良い。メキシコはまだ花産業の景気が良い。(どちらも宗教関連消費ベース…やっぱり強い!)アメリカは、南アメリカからの切花輸入が減る。南アメリカとアメリカの関係は、韓国と日本の関係と同じ。以上3ヶ国は他の国の動きと異なります。

アメリカは、輸入品から国産品に仕入を戻す? ずいぶん不安定な仕入/消費ですね~。(宗教色…カトリック・仏教…。やや弱い…。メキシコ移民がアメリカの切花市況に大きな影響を与えているのだそうですが…)

球根入荷状況

	11月船積球数	対総発注数出荷割合	12月末までにお客様に納品できた球数				
09年産	3,735,000 球	10.8%	1,123,000 球	(実績)			
10年産	4,806,000 球	13.4%	717,000 球	(実績)			
11年産	3,663,000 球	11.0%	1,136,000 球	(実績)			
12年産	3,761,310 球	12.0%	194,000 球	(実績)			
13年産	2,231,970 球	7.6%	943,375 球	(予定)	(12月までに内貨にできる 予定球数1,699,425球)		

*船の着港・検査が順調に推移した場合。

*明らかに球根農家/輸出業社の作業遅れが確認されます。これは天候によるところです。

1月~3月の入荷では、さらに深刻な影響が出ます。

13年産ワグ産百合球根は、当社の場合(12月20日現在)

12年産/13年産	発注	受注	
O. H/O. T	100.6%	98.8%	
A. H/L. A/Longi	84.7%	81.4%	
合計	93.7%	91.2%	

*かなりの欠品を見込んで、例年同期より、在庫率を上げている。(欠品対策!)

日本全体の発注量は、当社独自聞き取り調査によれば、(A. H/L. A と O. H/O. T の分類はできない。あくまでも総数ベース。)

約 95,000,000 球前年比 **90.0%** くらいとなっている様です。(日本全体では在庫は出来るだけ作らない傾向?)

ところで、世界中の国で具体的に取引進捗率が実際の取引(入荷)が終了する前のある程度の精度で把握できるのは、『日本』だけなのです。

今後の追加発注確保がある一方、かなりの欠品も予測されています。

最終的に前年の球数に到達するのは難しそうです。(1億球に行くかなあ〜)
円安の為、球根価格も上昇しています。やむを得ないのでしょうか？

参考

世界のO.H/O.T球根消費量 (北半球産/南半球産球根)

ヨーロッパ 約3.0億球 (オランダ、アフリカ含む)

アジア 約4.5億球 (オセアニア含む、中国2億2千万〜2億4千万球。日本の9千万球は、ドライセル用養成球除く。)

南アメリカ 約0.8億球

北アメリカ 約1.0億球

かなり、ラフな分析ですが、各地域の消費球数です。(残念ながらオランダ球根輸出統計が無くなった。新たに作ろうという機運が高まったが、情報を出したまらない輸出業社勢力の方が多かった。馬鹿だな、と思います。)

アジアのシェアが高いですね…。中国の消費量はオランダの消費球数を超える勢いだったのでですね…。

オランダ出張報告 (12月8日〜12月14日)

4軒の球根農家を訪問。

5軒の育種会社を訪問

9軒の輸出業社を訪問

目的

- 1) 作況調査
- 2) 品質調査
- 3) 球根販売流通状況 (日本及び世界市場)
- 4) 球根切花/切花園芸の将来 (オランダ視点) 意見交換
- 5) 『日本花卉卸売市場協会データ1985〜2012』の推移を見た中での日本切花市場についての意見交換

1) 作況調査

良くないと判断。例年より在庫を多めに作った。(欠品対策在庫)

2) 品質調査

*芽の動きを注視・充実の遅れに注目。対策と情報をお客様に繋ぐ。

*オランダ東部地区にて生産されている2N球を中心に、9月上旬の雨、10月/11月の雨の多さから、相当高い割合のウォーターダメージが確認されているとの事(酸欠型ブラックズ)。同一ロット内で、0.3%から27.0%、対象球数1,000,000球強、となってしまった品種が出てきている。

これは恐ろしい。球根栽培後期水没なので、畑での被害のある部団の仕分けが農家レベルで出来ていないケースが多い。輸出業社レベルでの着荷検品が勝負。

3) 販売流通状況

本年9月以降から急速に、12年産オランダ産不良在庫率が高まった。(輸出業社でこの事を日本の輸入業者に伝えていた会社は少ない。)基本的に、13年産南半球産は、世界市場に対しては過剰だった。

13年産オランダ産

さらなるEURO高が進めば苦しくなる…。

原価計算管理を厳しく行わなければいけない球根消費国(各国切花市場。特に新興球根消費国。)では『その球根代だともう赤字!!』という計算となる様です。当然購入量は控え気味となります。

*最近中国昆明で、大雪が降り、一産地が壊滅的な打撃を受けた。途端に切花価格が上昇した。ちょっと中国からの球根注文が増加し始めたそうです。

厳しいですなあ〜。

ちなみにキーワードは、「事前計画」だそうです。『球根切花の必須』だそうです。(インドやオーストラリアなどの

自国生産自国消費型新興国ですら。業務用でなく、各国の宗教が絡まないワイフの個人消費市場が大きければ当然そうなりますわなあ〜。）

4) 球根切花/切花園芸の将来・意見交換 (ハンダ視点)

日本のチューリップは、¥65.0/1本平均以上しないと合わない。日本の農家は努力が足りない…日本の市場は怠けている…が口癖だったハンダ…。

気が付いたら、ハンダの切花農家は、「俺は¥30.0で出来る。」「俺は¥29.0で出来る。」「俺は¥27.0で出来る。」「俺は¥26.8で出来る。」…これって本当に消費者の為？ハンダで作られたヨーロッパで流通している花ってきれいですか？本当にお客様の為？これってどういうマーケティング？

今やハンダのチューリップ切花農家は、1軒の生産量が5千万本、6千万本、1億本プラスαになってしまった。

切花農家自作球根が使用球根の大半だから出来る事。

球根業社はこの動きにほとんど関わっていません！念の為。彼らはむしろこの切花農家の動きの為にヨーロッパ各国での切花用チューリップ球根の販売のチャンスが減らしてきています。

購入球根でしか切花を栽培していない国に、こんな事出来るの？(1軒当たりの経営本数1千万本、3千万本という国が出始めているそうです…。)

宗教が切花消費のベースに無い国で、花の消費を作っていく事の難しさ…リスク…。キーワードは、物流と量販…。

話してきた内容はあまりにも過激…。

機会があったらお話しします。

今現在200軒くらい登録のある百合球根農家の数は、近い将来140軒くらいになる??(何か日本の市場数推移に似ていますね…。)

頑張って『日本向け品種』作って儲けてもらいましょう！

5) 日本の切花市場についての意見交換

『1985年～2012年』の日本における切花流通状況の変化は、世界の先端という考え方。好景気・不景気・ブーム・ファッション…。

『コンビニもIT産業も金融モデルも参考に出来ない事に、切花産業は気が付くことになるでしょう』だそうです…。(全くヒントが無いとは思えません。だけどインターネット取引はどうでしょう？安定消費、作れますかね〜?)

5億人も6億人も消費人口がいるはずのヨーロッパ、ハンダの花市場の売り上げは、日本と大して変わりません。

ハンダは花市場1軒しかありません。日本は131軒？日本の市場って、ハンダで言うところの卸問屋の機能？日本の市場手数料は、ハンダ切花輸出業社マジソに似ている？ヨーロッパにおける市場外流通数及び価額統計は、不勉強で分かりません。

ハンダは、41億EURO、日本は3,900億円？(適応レートはこの際考えないで下さい…。)

1億2千万人～3千万人で、卸売りベースでの売上額は、ハンダ市場の売上と変わらない…。

日本人て花が好きなんだなあ〜。日本人て花を高価く評価してくれているんだなあ〜。何か間違っていたんですかね〜。

ちなみに、日本のホテル代と日本の外食代(昼食バール)は、ハンダの半額以下というイメージです。日本の方が尋常でなく安いものがあるって最近気が付きました。逆に言うと、ハンダのそれは、品質対価で高価すぎというイメージです。外国人が見てもそういう感想だそうです。『日本のホテルとレストランは人口当たりに対し過剰なのではないか?』という意見も同時にあります。

花もヨーロッパ並みに安くならなければいけないのでしょうか？安くしてもハンダ市場の売上は落ちていきますけど…。(繰り返しますが、市場外統計は、不勉強な為、分かりません。)

日本は苦しくても帰れるべき原点がある。これは幸せ！（ある球根輸出業社のコメント…。）それが無い国ってどうなってしまうのか？

オランダ人やヨーロッパ市場・アメリカ市場よりも、日本の花卉産業流通市場の方が遅れているように見えて、実は進んでいるとしたら…。

日本の進むべき道は？

ちなみに、オランダと日本を除く世界の主要切花生産消費国で、競り、または時計競りで、価格形成する国は有りません。ほとんどが通称『松原方式』です。これが意味することは？（私個人的には、『松原方式が正しいはず』だと考えています。）

『松原方式』の強み・弱みは、「現物主義」そして、「人と人」だと思います。（両方とも強みであって弱み。）

*次の情勢報告の機会には、物流の変化についてお話ししたいです。（すいません。前回の情勢報告にて告知した『オランダ業者の冷蔵庫の話』をまだしていない…。）

参考＝マースクラインと G6 同盟からの参考数値

ヨーロッパとアジアの物流状況（コンテナ輸出入ベース）							
日本	：	約	5.0% シェア				
韓国	：	約	5.5% シェア				
台湾	：	約	4.5% シェア				
中国	：	約	70.0% シェア	（ところでこの内、日本/韓国/ヨーロッパの企業の貨物物流占有率は？ いわゆる産業空洞化っていうヤツ…。）			
その他の アジア諸国	：	約	15.0% シェア				

オセアニアとアジア

オセアニア：日本ってどのくらいの貿易割合？

オセアニア：中国ってどのくらいの貿易割合？

南アメリカとアジア

南アメリカ（邦）：日本ってどのくらいの貿易割合？

南アメリカ（邦）：中国ってどのくらいの貿易割合？

*この事を想定した時

N. Z/ C. H の品種構成は、将来どんな割合になるべき？日本の市場は責任取る気があるの？

上記数値は、球根を運ぶコンテナ数ベースではありません。

全ての貨物量ベースでの割合です。球根取引量は、日本もアジアの諸外国のそれと比べても、そこそこ頑張っているんですけどね…。

物流はいち早くデフレからインフレに転じてきそうです！

国内の物流も悪化の兆しが見えてきていますが、ヨーロッパから見た時、中国より東側にある日本は、オセアニア並みに悪くなる？これは近い将来大きな問題となる様に感じています。恐ろしい話です。

韓国出張報告（12月17日～12月19日）

- 1) 百合専門研究センター訪問/意見交換
- 2) 百合球根農家/普及員/研究員対象講演会
- 3) 百合切花農家視察
- 4) 韓国球根輸入業社との意見交換

大変興味深かったです。(今回が山喜農園としては、6回目の訪問です。内、部長が4回。私が3回。1回は2人で行ってきました。)

基本的には、私がいつも日本の切花産地の皆様に話している内容と同じ話をしてきました。

韓国農業の厳しさは、日本のそれ以上？

韓国の百合切花農家は、『共選率』が高い。(だから日本向けに百合切花輸出シェア90%までとれた！)

日本の切花産地みたいに息を合わせて仕事出来るか？(難しいみたい…。)

百合切花輸出(あくまでも輸出)は、個選は無理？息を合わせなければ共選でも無理？

来年はだいぶ減るみたいですね…。

参考

私が個人的に視察研修をしてきた『自国生産自国消費』を行っている国々。

アメリカ・イタリア・中国・台湾・メキシコ・オーストラリアは、すべて個選販売でした。

オランダは自国生産自国消費国ではない？(もちろんスタートは自国消費がベースにあった。今も最も重要な市場。ここは重要なポイント。)←何を学ぶのですか！切花輸出ですか？オランダの切花産業発展のキーワードは、『ヨーロッパを席卷した花卉物流、及び農協市場のほずです』

ところで、オランダも個選です。(農協市場に出荷していますが…これも個選って呼ぶ?)但し、オランダの切花産業には、農協金融がある(アボバンク)。オランダの切花産業には、農家が主導して作った農協花市場(組合)がある。(オランダフラワーマーケットオーション。オランダ唯一の花市場の事!)ここが日本との最大の差!(そういえば、オランダ花市場の手数料と全農/経済連/単協の手数料、似ていますね!)

個選販売では、個人消費市場での消費増減・価格競争に飲み込まれてしまう姿を見てきました。

生産側が消費をリードしていかないとダメになる。←メキシコで勉強してきた事!

それが出来ていた国は、(私が視察した時点での話)メキシコとオーストラリアしかありませんでした。(どちらの国も国家が自国の農業を守っていた。それにしても…、オーストラリアの自国農業保護政策って…。TPP協議に参加しているのに…メキシコのやり方は立派だと思いました。)

台湾は、45,000,000球が適正量。約55,000,000球まで増えて、今は30,000,000球前半まで消費を落としている様です。

メキシコ適正量は、約90~95,000,000球。13年産では1億球の壁を超える見込みだそうです。

さあ、どうなるでしょう……。それにしてもオランダ人は…なんで価値を下げてがる…。何でお客様に数字を示した情報を出したがる…。自分で自分の首を絞めることになるのに…。)

不明な点等あれば、お問い合わせください。
よろしくお願ひ致します。

以上 森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>
私共はLPIJの運営に賛同し
協力・応援しています